

“人間と性”

一般社団法人“人間と性”教育研究協議会
〈性教協〉会報 No. 387 2023.11.25



発行：“人間と性”教育研究協議会 / 発行責任者：北山ひと美
〒151-0071 東京都渋谷区本町1-7-16 初台/ハイツ1006号
<https://www.seikyokyo.org> Tel 03 (3379) 7556

視点

“せせらぎ”を絶やさぬように ～近畿サークル協議会から流れ生まれた奈良性教協～

今年で、40年の養護教諭生活を何とか無事に終えました。思えば、約30年前に性教協に出会ってからずっと、性教協とりわけ近畿のサークルに支えられていたように思います。1998年の発足当時から一緒に活動しているメンバーや、ご縁のあった方々のおかげで、奈良サークルは存続できているのですが、退職後も性教育をライフワークにしたいと思える魅力的な方々との出会いには感謝しかありません。

私が初めてした性教育は、まだ新任の頃、小学6年生に「わたしたちのからだ」という自分で作った冊子を使った二次性徴の指導でした。受精による生命誕生も伝えましたが、一人の男子に「じゃあ、精子はどうやって卵子のところに行くの？」と質問されました。咄嗟に「今のあなたたちには必要ないことなので、もう少ししてから勉強しましょう。」と答えました。授業を見ていただいていた教頭先生にも「ベストな答えだった」と言われましたが、今ならあり得ないですね。質問をしてくれた子に申し訳なかったです。

その後、中学校に転勤しましたが、文部省版性教育元年といわれた1992年に大阪で開催された第1回近畿セミナーに参加して、性教協と運命的な出会いをしました。まさに目から鱗でした。「科学・人権・自立・共生」のキーワードや、性は人権・生き方そのものであり、学ぶ必要・学校で教える必要があるということが、強く胸に刺さりました。そして、大阪性教協の会員になり、例会やセミナーに参加するようになりました。折しも性教育はエイズ教育とも相まって追い風で、同僚も誘ってせっせと勉強会に出かけ、多彩な報告者の話を聞くのが楽しく、満足感でいっぱいでした。

「近畿はひとつ」と近畿サークル協議会（以下近協）で各サークルの担当者が集まり、定期的に会議が持たれていますが、誘われて参加しているうちに、「奈良サークルを作らないか？近協がお膳立てするから」、ということで村瀬幸浩さんをお迎えして華々しく発足記念講演会を開きました。とはいえ、しばらくは大阪との合同学習会という活動でしたが、奈良独自の事務局通信に、勤務校に近かった市の施設名でもある「せせらぎ」と名付け発行しました。小川の流れのようにさらさらと絶えることなく続けていきたいという願いを込めました。

ところが、家族の病気もあり、数年後には活動休止状態となってしまいました。それを救ってくれたのが、また近協でした。近畿ぐるっとプレセミナーに奈良も加えてもらい、再び村瀬さんをお迎えし、京都の全国セミナーに臨みました。それからは無理のない活動をしながらも近畿セミナーを2回開催できました。奈良県女性センターの地域活動グループとして、毎年イベントに参加し、他グループとの交流もしています。総会セミナーも開き、今年は会員で思春期外来をされている丸山祥代医師のお話を聴きます。「せせらぎ」も復刊32号となりました。今度は、留まらずに細流でもしっかりと未来に向かって、地元を流れていきたいと思っています。



日野上 玲子
(奈良“人間と性”教育研究協議会（奈良性教協）代表)